



# 海水情報センター 50年のあゆみ

## 開設まで

- 1954年 (昭和29年) 海上保安部署等による沿岸観測および巡視船による観測開始
- 1955年 (昭和30年) 第一管区海上保安本部水路部「海洋概報(海水編)」発行開始
- 1957年 (昭和32年) 航空機による観測開始
- 1960年 (昭和35年) 海水情報を安全通信電報により提供開始(1992年航行警報に名称変更し現在まで)
- 1962年 (昭和37年) 函館海上保安部に砕氷巡視船「宗谷」配属(1978年解役)
- 1966年 (昭和41年) 第一管区海上保安本部「海水旬報」発行開始(1969年海水速報に名称変更して1997年まで)
- 1970年 (昭和45年) 3月 択捉島単冠湾(ひとかつぱわん)の漁船集団海難発生  
12月 **海水(流氷)情報センター設置**
- 1971年 (昭和46年) 流氷情報電報(文字)を海上保安部署へ毎日配信開始
- 1978年 (昭和53年) 11月 釧路海上保安部に大型砕氷巡視船「そうや」配備
- 1979年 (昭和54年) 千歳航空基地に大型航空機YS-11A配備(2009年解役)
- 1981年 (昭和56年) 巡視船そうやによるオホーツク海南西海域海水観測開始
- 1981年 (昭和63年) 海水分布図を毎日作成開始、ファクシミリにより海上保安部署へ配信開始
- 1994年 (平成06年) 海水分布図をファクシミリのポーリング機能により提供開始(2019年終了)
- 1995年 (平成07年) 10月 羅臼海上保安署に中型砕氷巡視船「てしお」配備
- 1997年 (平成09年) 海水情報をインターネットにより提供開始(2003年～ロシア語追加)
- 2007年 (平成19年) 12月 「流氷情報センター」から「海水情報センター」へ名称変更
- 2009年 (平成21年) 海水情報をAIS(自動船舶識別装置)により提供開始
- 2014年 (平成26年) 海水情報を海の安全情報により提供開始
- 2019年 (平成31年) (令和元年) 4月 海水情報を海しる(海洋状況提供システム)により提供開始  
12月 **海水情報センター50年目のシーズンを迎える**



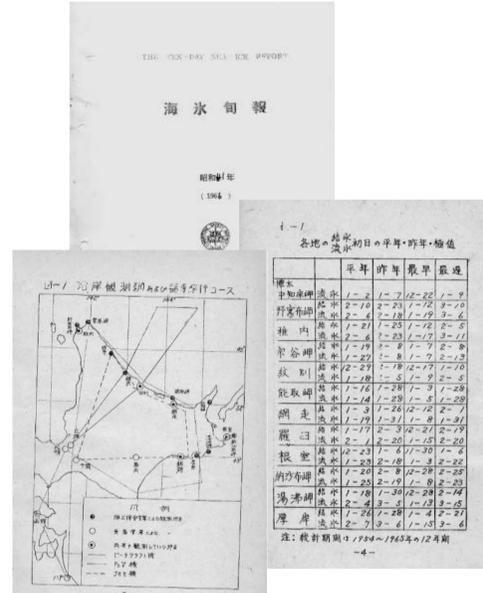
昭和29年 沿岸観測写真(紋別市)



昭和43年2月 巡視船「宗谷」



昭和30年、漁船を航行支援する巡視船「とがち」



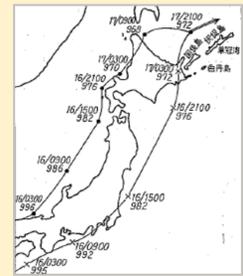
海水旬報 昭和41年1号 おおむね10日に1回印刷物が発行された

## 海水(流氷)情報センター開設の経緯

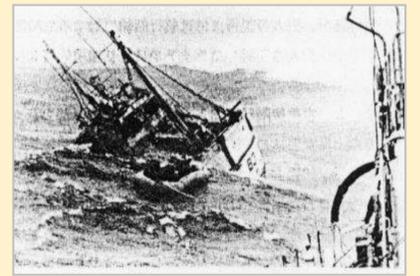
昭和45年(1970年)3月17日、択捉島南方で操業中の沖合底引漁船19隻は発達した低気圧による大時化を避けるため、択捉島単冠湾(ひとかつぱわん)に錨泊しました。この年の流氷は例年になく優勢で、オホーツク海側から太平洋側へ南下していました。発達した低気圧に伴う強い東南東の風により海氷は択捉島南岸に吹き寄せられ、大時化の中で圧着集積して3~4ノットの異常な速度で単冠湾に流れ込みました。錨泊中の漁船のうち1隻は海氷が来る前に強風のため陸岸に乗り上げ大破しました。その後、流氷による損傷及び強風による船上への流氷の打ち込み等により、2隻が転覆、3隻が沈没し、2隻が後日えい航救助されました。大破した船を含めた遭難漁船8隻の乗組員114名のうち、30名が死亡または行方不明となりました。この海難を契機に、第一管区海上保安本部では「海水(流氷)情報センター」を開設しました。



海難発生場所

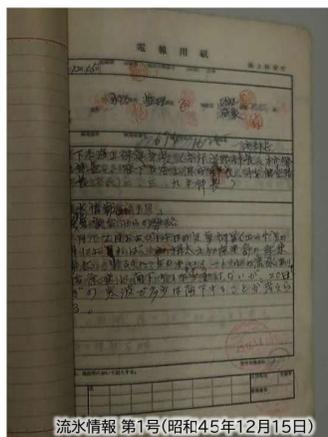


低気圧経路図 S45.3.16~18



遭難した漁船

## 開設から現在まで



流氷情報 第1号(昭和45年12月15日)



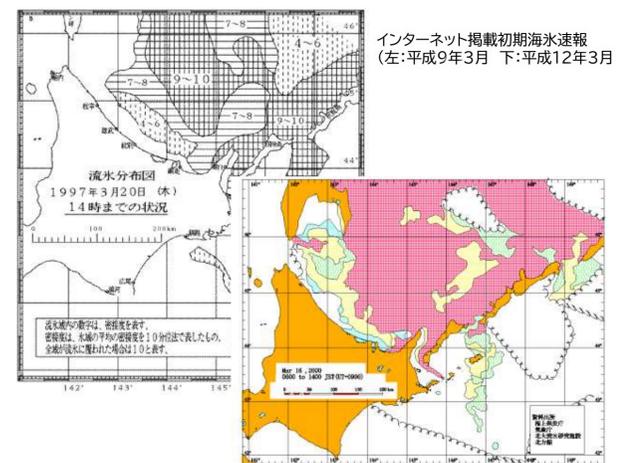
昭和53年、海水観測中のビーチクラフトH-18



巡視船「そうや」へ着船するシコルスキー76C



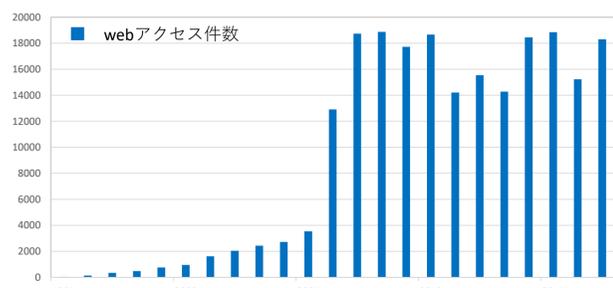
ベア212を誘導する職員



インターネット掲載初期海水速報 (左:平成9年3月 下:平成12年3月)



平成25年12月 海水情報センター開所式



Webページアクセス件数 (1997-2019年海水シーズン)  
最大アクセス件数 約189万件 (2010年、2017年)



日本の水海と海上保安庁  
~海水情報センターの50年~